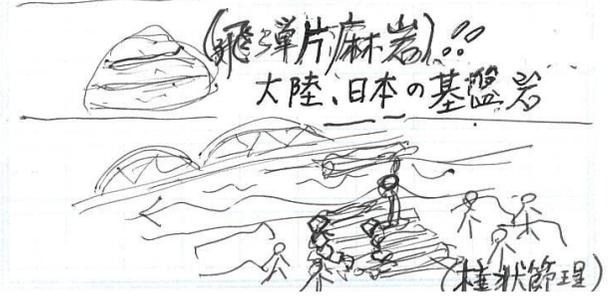




石川県は石と川
 手取川の河原を歩る
 て石を見る、大きさ、
 形、配列とさまざま
 石がある。こんなに石
 もじっくり見たのは、
 69年生きてきて初めて
 です。教授の石に対す
 る熱意が伝わって来て
 石に対する見方が今
 日から変わるかも?
 石も自然も楽な方に身
 をゆだねるんだね。

「自然は安きに流れる!？」

美川の浜や手取川の河原で石を採るのが大好きで、時間を忘れます。日本海形成や日本列島のできていく遠い昔までさか上って、ずとつづめて集積できる地や、森下先生の説明にも引き込まれました。追力のあるおた先生の話で「自然は安きに流れる(楽な方向に進む)」というフレーズも、座右の銘としてこのストレスな今を、もっと気楽に生きていこうと思いました。



私はこれまで石の価値を産地や規格、色合いや表情等で判断してきました。今回、石を学ぶことで、石一つ一つに歴史があり存在理由がある。そして石から日本の歴史をも読み取ることが出来ること知りました。これまで見向きもしなかつた石の見目が変わります。

石の並びについて
 以前から、手取川の石が流れに添うて、並んでいると聞いていました。今日、先生の話をお聞きして理解しました。おこ^う岸辺の石が、確かに並んでます。そして、それか何を意味するかな？このまま地層となつた時、川加どちうから流れていったか算がわかる！すごい！！

人間って楽な方へ^楽な方へ私も含めて流れやすい人が多^くいのが運命の石も楽な方へ^楽な方へ^楽な方へ手取川の中に柱状節理かくきり現れている所もありびっくりまさかこんな所に溶岩がひまわり流れ出て回りから冷されて出来る自然の芸術 なんすこいこと見て感じまくラッキーな時間でした。柱状節理の最大な東尋坊のオジマにあうための感激しましー。ジオのこと多くの人に知ってほしいなあ

人生楽な方へ行きたがる私

おごかけジオパーク、河原で見つけた片麻岩は、日本列島が大陸の一部だったこと、疑灰岩は日本海ができたことを物語っているところ。地球の活動が見られ、ジオパークなワケ、ワクワク場所なんです。

柱状節理が身近に。

丸い小石を見つけると、つい拾って持ち帰る癖があるけど、分類は小難しくしてよく分かりませんでした。But、やはり立ちが分かるように分類してみやすく感じます。

柱状節理はテレビでもやってその特別なものを見て、鶴来の川原にもあそこ、マクマがフリーントラのすき間に入り込んで、冷える方向のびび割れだとは、自分の座のことで、事のように感じました。

・全ての事には、わけがある。
・全ての物事は、楽な(安定する)方向に動こうとする。人も又然り。
この単純な真理に、深く納得、感動しました。
石が生成される理由、過程を考えながら観察するのは、非常にわくわくする事でした。
・あんな美しい柱状節理があるなんて、感激。

青大将も参加の石の学習会

石の学習は何回学習しても楽しい。今回も知っている石に出会うと「こんなに」という気持ちになり、よく見かけるのだけど相変わらずわからない石には「人間が勝手に分類してはダメだね。」と思う。石は地球46億年の歴史の中で温度、圧力などの影響を受けて、姿や構成を変えて今ここにあるとのこと。なくなるものではなく、何らかのつながりを持つて今があるのが雄大。学習途中1mを超える青大将が参加してきたのには驚かされた。

「自然界の摂理」に納得

石に込められた物語を講師の森下さんは熱く語られました。とかく石の愛好家は名称や分類に傾きがちですが、「自然界では安定した形を取ろうとする」というキーワードで河原の石の配列に始まり、結晶・非結晶、貫入した溶岩節理などを説明されました。足元の石だけをテーマにあつという間の二時間、これからの講座で、石川県の基盤を構成する岩石などが順次紹介されるようで楽しみです。

第一講座で学んだこと
① TVでは何度も見た柱状節理が、近くの手取川の河原に寝た形・触れる状態で見られる。
② 置入というものが、手取川中流り河原の1ヶ所だけでも大は①の柱状節理、小は手指三本にも乗るほどの小石にも細かい一本線の形で予想よりも遙かに多くの規模で存在する。

長^アい長^アい旅路。

石北は、そのままな生い立ちと、その発展の経路があります。姿を変えなばう。
（形・大きさ・重たさ・色・模様）
地球の表と循環とあります。そして、その途中では、私達と楽しませてください！
石北、広範囲に
リサイクルされるため
旅は、まだまだ続きます。